訪問看護ステーション連絡協議会だより

第51号

発行年月　2026年2月
発 行 所　岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
〒700-0805 岡山市北区兵団４－３９
岡山県看護研修センター３階
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
https://okayama.houmonkango.net/
E-mail　okayama@space.ocn.ne.jp
発行責任者　菅 﨑 仁 美

年頭のご挨拶

一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
会長　菅﨑仁美

平素より岡山県内の訪問看護の推進にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

２０２６年の始まりにあたり、私たちは２０４０年という大きな節目に向けて、訪問看護の未来を見据えた準備を本格的に進めていく必要があります。少子高齢化の加速、医療ニーズの多様化、地域間格差の拡大など、私たちが直面する課題は多岐にわたります。こうした変化の中で、訪問看護は、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための要として、ますます重要な役割を担っていくことが求められています。

今後、在宅医療を利用される方の増加や大規模災害の発生リスクを踏まえ、地域に根ざし、利用者様に寄り添った訪問看護が提供できるよう、研修会の開催によるスキルの向上、地区間の交流促進、横のつながりの強化に取り組んでまいります。また、会員の皆さまにとって有益な情報発信にも努めてまいります。

訪問看護の質の向上と持続可能な体制づくりに向けて、会員事業所のみならず、関係機関の皆さまとも連携し、地域全体で支え合う仕組みづくりを進めていきたいと考えております。人材育成、多職種連携、災害時対応、ＩＣＴの活用など、多角的な取り組みを通じて、地域包括ケアの一翼を担う訪問看護の力をさらに高めてまいります。

本年も、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

賛助会員からのメッセージ

岡山リハビリ機器販売有限会社

私共、岡山リハビリ機器販売は1981年に橋本義肢製作株式会社の福祉用具販売会社として創立して45年余り、福祉用具を通してお客様が生活を営む住宅環境整備を提案してまいりました。１級建築士事務所の専門性を評価していただき障害者用住宅の建築から手すりの取り付けまで年間840件の施工実績もございます。これからも福祉用具のプロとして関係各位とのサービス連携を基軸に福祉用具・福祉機器の提供からモニタリング、修理まで一貫した利用者本位のサービスの提供を行って参ります。また、関連会社の橋本義肢製作株式会社では2008年からは靴の店グラートを展開して予防靴の提案も行い健康予防の取組みを始めております。岡山リハビリ機器販売は橋本義肢製作と連携して、利用者の目線に立って様々な福祉用具をトータルに提供することにより、利用者の心と健康を保つよう今後も精進してまいります。

➡連絡先 086-242-5500

株式会社モシモシ

モシモシ薬局/E薬局　地域連携部門　部門長
地域薬学ケア専門薬剤師（がん）　西宮 祐輔

私たちは、在宅で療養される方々やそのご家族に、安心と支えを届けたいと願っています。

在宅医療の要として地域連携部門を独立させ、訪問診療に関わる皆様と心をつなぐ架け橋に。無菌調製設備を有し、輸液や医療用麻薬の安全でクリーンな調製が可能です。PCAポンプを活用したがん末期の緩和医療も支援いたします。がんを専門とする薬剤師が在籍し、患者さま一人ひとりに寄り添ったサポートを提供します。また、学会発表など学術的な取り組みを通じて、より良い在宅医療や未来の人材を育んでいます。

instagram　homepage

地区毎災害時机上訓練実施報告

「倉敷・総社地区合同防災訓練を振り返って　(倉敷・総社地区)」

理事　末延美佳子

この度の訓練は、事業所単位のみではなく、近隣の訪問看護ステーションと合同で行いました。もともと総社.倉敷.玉島.児島.水島と地区別に交流は進んでいましたが、この訓練への関心は強く、はじめましての方とも連携ツールを共有することで輪が広がりました。初めての合同訓練でしたが、与えられた被災状況から想定し、近隣ステーションと連絡を取りながら、対策本部となる連絡協議会へ現況を届出、支援を必要とするところには、ステーション間でマッチングされるなど一連の流れを実際に体験することができました。この訓練から、それぞれに気づき、解決すべき課題もみえたのではないかと思います。今後も更に考える機会を持ちながら、倉敷・総社地区の連携を深めていきたいと思います。

「災害時机上訓練状況について　(津山地区)」

理事　高田 香織

令和7年10月9日線状降水帯が発生したとして訓練を行いました。事前に協議会から送られた被災状況、被災パターンをLINEで各管理者と共有し、その際被災パターンはランダムにすることを了承してもらいました。当日それぞれ動いていたためLINEやメール、電話等で連絡を取り合いました。事前に13ステーションを4グループに分けリーダーを決めていました。そのリーダーのところに情報を集めてもらいました。中には事前に話し合っていたグループもありました。また自ステーションの訓練と災害訓練と重ねているところもあり深い訓練になったと感じました。

感想、問題点として被災状況が異なるため何をどうお願いしていいかわかりづらく、他の被災状況を知ることができなかった。業務を優先したのでリアルタイムでなかったという反省がありました。しかし最低限の連絡を取り合うことができ良かったと感じました。

「地区毎災害時机上訓練を実施して ～当会災害対策本部の立場から～」

事務局長　亀川 展子

令和7年度事業計画に基づき、地域内のネットワーク基盤を整備するとともに、有事の際に迅速な対応ができるよう、各地区において災害を想定した訓練を行いました。

事務局は災害対策本部として、情報の集約や、各事業所の業務継続のために必要な対応、関係機関への情報提供などを担っています。各地区の訓練と合わせ災害対策本部としての訓練も行っています。

提出された現況連絡票を集約し、支援を要する事業所と支援が提供できる事業所をステーションマップに反映し、距離や交通手段等を考慮したマッチングを行いました。さらに今年度は支援が提供できる事業所へ支援依頼を行い、支援決定および支援依頼の文書送付まで実施しました。

災害の程度によっては、災害対策本部の機能が十分に発揮できない場合も想定されますが、可能な限り情報の集約と情報提供を続けていく必要があります。効率的な情報収集のためには、現況連絡はグーグルフォームの活用が有効であると感じています。

来年度は、全体での訓練を予定しています。訓練を重ね、災害への備えをさらに強化していきたいと思います。

令和7年度岡山市公衆衛生功労者表彰を受けて

あいの里訪問看護ステーション　井上うき子

令和７年11月20日（木）　岡山市公衆衛生功労者表彰式に出席し、アーク訪問看護ステーション新保店の神﨑ゆかりさんは、地域医療事業功労の保健所長表彰を受け、私は市長表彰を受けました。31年前の再就職の面接時に、子育てで４年間ブランクがあった私に、看護の基本的なことができると、(故) 理事長から訪問看護を勧められました。やりがいのある仕事に出会え、とてもありがたく思っています。核家族で、３人の子育てと仕事を続けることができたのは、職場の先輩やスタッフの方々、病児保育の保育士さん、学童保育の指導員の方々、利用者様やそのご家族からの感謝のお言葉、そして夫や子どもたちの協力があったからです。大変感謝しております。私が受賞したことで、後輩スタッフが今後も地域で長く訪問看護を続け、地域に貢献できるように繋ぐことができればと思います。私も体力・気力が続く限り、今後も微力ながら地域に貢献していきます。

市長表彰
あいの里訪問看護ステーション　井上うき子

保健所長表彰
アーク訪問看護ステーション新保店　神﨑ゆかり

各委員会報告

課題検討委員会の取り組み

委員長　塚本晴美

課題検討委員会は、訪問看護ステーションが関わる共通の課題を検討し訪問看護事業の運営の安定を図る事を目的に活動しています。今までは主に管理者カフェや多職種交流会の企画・運営を行ってきましたが令和７年度は「ハラスメント」に焦点をあて岡山県訪問看護ステーション連絡協議会としての「ハラスメントマニュアル」作成に取り組みました。ハラスメントはいかなる場合でも認められるものではありませんが、私達訪問看護師は環境面からもハラスメントを受けるリスクが高い状況であると言えます。その為リスクアセスメントもしっかり盛り込んだものといたしました。どうぞご活用ください。

日々、ステーション運営に携わる中多くの課題に直面しますがその課題に向き合い今後も課題解決に取り組んでまいります。皆様　ご協力をお願い申し上げます。

「研修委員会の取り組み」

委員長　松平加奈子

訪問看護は、高齢化社会の進展と在宅医療の推進という社会的な背景から、医療・生活の両面にわたる多岐にわたる役割と高度なスキルが求められています。

研修委員会の取り組みとして、

1. 高度なアセスメント力と判断力
2. コミュニケーション力と信頼関係構築力
3. 幅広い医療・看護技術
4. 自己管理能力と制度の知識
5. リスクマネジメント・ハラスメント等、

2025年法定研修も含め、ラダー別教育プログラム、レベル別研修を計画しています。そのような中で、研修を受けやすい環境整備（web等）の検討も課題となっています。研修参加者のアンケート結果を参考にして、自主的に学びたくなる、そして、参加しやすい研修となるように努めていきますので、ご参加をよろしくお願い申し上げます。

「広報委員会の取り組み」

委員長　田野美香

広報委員会では、訪問看護ステーションの活動をより多くの方に知っていただくため、様々な広報活動を行っています。まず、定期的な広報誌の発行を通して、訪問看護に携わる皆さんへ、業務に役立つ情報やステーションの取り組みを分かりやすく発信しています。また、ホームページの活用促進にも力を入れ、最新情報の更新や、見やすい構成づくりを勧めることで、地域の方や関係機関が、必要な情報にアクセスしやすい環境を整えています。さらに訪問看護が関わる催事には積極的に参加し、同業者または県民の皆さまに訪問看護の役割や魅力を伝える普及・啓発活動を行っています。今後も地域に寄り添う情報発信に努めてまいります。

2025年訪問看護サミットに参加して

副会長　谷部明子

高齢社会が進む中、独居で暮らす方も増え、訪問看護は「一つの事業所の活動」を超えて、地域全体の看護資源としての役割を担う時代になっています。病気や障害があっても住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい――その思いを支えることが、訪問看護の大切な使命であると改めて感じました。

一方で、地域を支えるためには、私たち看護師自身が健やかに働き続けられる環境づくりが欠かせません。「利用者を大切にする」だけでなく、「働く看護師が大切にされる職場」でこそ、専門性が最大限発揮されます。

サミットでは、交流事業などを通じて相互理解と信頼関係を深め、看看連携の強化が今後ますます重要になることを学びました。2040年に向け、訪問看護は「支える看護」から「支え合う看護」へと進化していく必要があります。

今回の学びを胸に、私は「一人ひとりの力を信じ、チームで成長すること」「すべての人に思いやりをもって大切に関わること」をこれからも実践し、地域に必要とされる訪問看護を目指していきたいと思います。

ステーションからのリレーだより

創心会訪問看護リハビリステーション大安寺

管理者　岡田友江

はじめまして。創心会訪問看護リハビリステーション大安寺です。

開設４年目を迎え、現在看護師４名と理学療法士１名、作業療法士６名、事務員１名の計12名です。

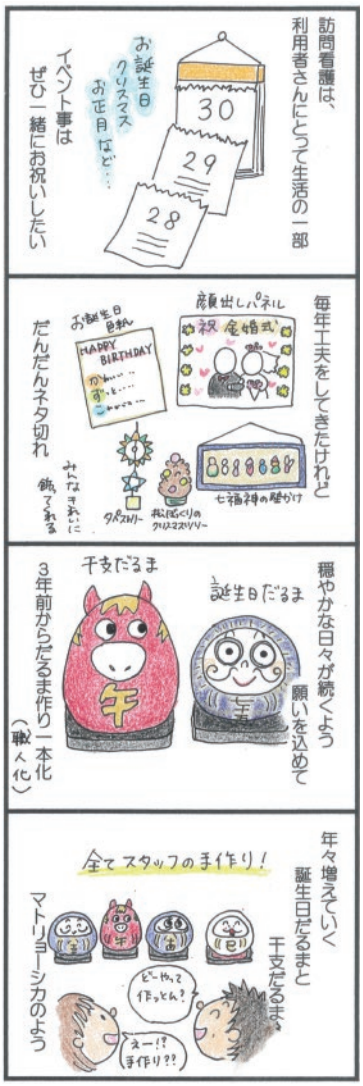
利用者様の今ある全体の能力を活かしてどのように日常での生活の活動を高めるのか、家庭や地域社会への参加（居場所や役割をつくること）を可能にするのかを視点として、利用者様が住み慣れたご自宅でご家族や地域の方と自分らしい暮らしを支えるために日々活動しています。

私たちは、お一人おひとりの心に寄り添いながら、新たな一歩を照らす存在でありたいと心から願っております。

津山第一病院訪問看護ステーション

管理者　井上美香

岡山県北にある津山第一病院訪問看護ステーションの管理者、井上です。当ステーションでは、看護師７名、療法士２名、事務スタッフ２名が連携し、地域の皆さま約80名の利用者さまのご自宅を日々訪問しています。明るく温かい雰囲気が自慢で、スタッフ同士の仲も良く、毎年11月には恒例となったマラソン大会に有志で参加しています。３年前には記念にお揃いのＴシャツを作り、チームとしての一体感も深まりました。「関わる人を笑顔に」を合言葉に、利用者さまやご家族に寄り添い、その人らしい暮らしを支えることを大切にしています。これからも地域に根ざし、安心できる訪問看護を提供してまいります。一緒に働く仲間も随時募集しています。



「まちの保健室・おかやまの看護展」に参加して

広報委員　山邊桂子

10月26日岡山県看護協会主催の、まちの保健室・おかやまの看護展に広報委員２名参加しました。

当日は、雨上がりの曇り空。さらに、WBCの試合で日本人選手の活躍もあり、来場者が少なめでしたが、足を運んでくださった地域の方々・買い物の途中で立ち寄ってくださった方との交流の場となりました。ブースに立ち寄ってくださった地区の民生委員さんとは「独居の方の支援で、ゴミ出しができない。通所に行けない」、在宅関係の方とは「日本と外国の医療の違い」、以前訪問看護をご利用されていた方やこれからの家族のためと言われた方とは訪問看護はどんなサービス？等のお話しが出ました。

中には、凍傷の対応や病院選定についての相談もあり、「自宅で気を付けるポイントを知れて安心した」「訪問看護の役割を知れた」等の声をいただきました。また、介護認定・訪問看護利用について相談する場所の相談もあり、お伝えすることができました。訪問看護の役割に関心を寄せてくださる方もあり、「自宅で受けられる看護を知るきっかけになった」との声もいただき、限られた時間ではありましたが、訪問看護を身近に感じていただき、地域に寄り添う活動の大切さを感じる良い機会となりました。訪問看護ってどんな事をしてくれる？の声もまだまだありますが、今後も、地域に寄り添う活動を継続し、住み慣れた場所で安心して暮らせる支援をみなさんで続けていきましょう。

編集後記

今回の広報紙では、県内各地で行われた災害を想定した訓練の様子や、防災に向けた取り組みをご紹介しました。災害時にも在宅療養を続ける方々の生活を支える為には、日頃からの備えと関係機関との連携が欠かせません。訪問看護ステーションそれぞれの工夫や実践が、いざという時の大きな力になります。今後も県内の訪問看護ステーションが一体となり、安心につながる情報を発信してまいります。

広報委員一同